

<卒業論文概要>

生涯スポーツ社会における部活動の在り方に関する考察
—Jリーグ百年構想を手掛かりに—

吉田 達朗*

1. 本研究の目的と方法

本研究は、戦後日本のスポーツの在り方の変遷を明らかにし、現在の生涯スポーツ社会において、Jリーグ「百年構想」を手掛かりに、様々な課題を内包する部活動の在り方を考察する。なお、本研究で取り上げる部活動は中学校と高等学校における運動部活動に限定する。

2. 構成

序章 問題の所在と研究の目的

第1節 本研究の目的

第2節 問題の所在

第3節 論文の構成

第4節 用語の定義

第1章 日本におけるスポーツ政策の展開と生涯スポーツの類型化

第1節 日本のこれまでのスポーツ施策

第2節 生涯スポーツの類型化

第2章 Jリーグ百年構想を手掛かりとしたスポーツの在り方に関わる新たな展開

第1節 Jリーグ

第2節 企業型スポーツと地域型スポーツの融合と、
新たなスポーツの在り方の誕生

第3章 生涯スポーツ社会における部活動

第1節 学習指導要領における部活動とその意義

第2節 部活動の課題と対応策

第3節 生涯スポーツ社会における部活動

終章 本研究のまとめと考察

第1節 本研究の課題と考察

第2節 今後の課題

* 筑波大学人間学群教育学類4年

3. 概要

序章では、問題の所在と本研究の目的を述べた。

第1章では、戦後から現在までのスポーツの認識のされ方の変遷を、保健体育審議会答申を中心に概観し、スポーツの在り方を類型化した。戦後から東京オリンピックにかけて、スポーツは国民の体力向上を目的として、学校や地域、職場でそれぞれ行われていた。その後高度経済成長期に入り国民が豊かになるにつれて、スポーツが「する」だけでなく「観る」「支える」といった考え方を内包しつつ、権利として認識されていくようになる。1990年代に社会体育はその概念を広げて生涯スポーツとなり、以降現在までスポーツを行う場の垣根を越えた連携が重要視されている。これらの事実から、生涯スポーツをプロスポーツや実業団など、競技を主目的に行われる「企業型」、部活動に代表される「学校型」、主にレクリエーションとして行われる「地域型」に類型化した。

第2章では、Jリーグ「百年構想」によるスポーツの在り方の変化を取り上げた。Jリーグは「企業型」スポーツの在り方を変革し、地域密着という理念や、スポーツを「観る」「支える」という概念の創出により、「企業型」と「地域型」のスポーツの連携を推進したことが明らかになった。

第3章では、「学校型」スポーツである部活動の現状や意義、課題を整理した。顧問を引き受ける教員の負担や専門的指導者不在などの指導者に関する課題、教育的意義よりも試合に勝つことを目的とする勝利至上主義という課題、少子化を背景とした生徒数の減少による部活動の休部・廃止という課題を挙げた。その解決策として、Jリーグ「百年構想」で提起された地域密着という理念や実践を参照しつつ、部活動が地域資源を活用し「支える」スポーツの対象となること、学校という枠に縛られないスポーツ組織の仕組みなどを提案した。

終章では、第1章から第3章までの考察をまとめた。

4. 主要参考文献

関春南著『戦後日本のスポーツ政策その構造と展開』大修館書店、1997年

佐野毅彦「Jリーグというイノベーション 日本スポーツ産業の課題と解決策に関する考察」

慶應義塾大学湘南藤沢学会『Keio SFC journal』第6巻1号、2007年

大竹弘和・上田幸夫「地域スポーツとの「融合」を通じた学校運動部の再構成」『日本体育大学紀要』第30巻 記念特別号（第2号）、2001年